割

六年

画数 12

筆順 宀 宀 宀 害 割

オン カツ

クン わり・わ＝る＝れる さ＝く

成り立ち

「傷つける」という意味の〝害（年467）〟と、刀の形を表した〝刂〟とを組み合わせて作った字です。

「刀で傷つける」という意味の字です。

「刀で物を〝切りさく〟」ことを表した字です。

〝さく〟とか〝わる〟という意味の使い方をしています。

また、〝役割（役目を割り当てること。また、割り当てられた役目のこと）〟というような使い方もあります。

使い方

▽夏休みの臨海学校で楽しかったことは、すいか割りで、ぼくが見事にすいかを割ったことです。

▽わたしは、算数の割り算が苦手です。とくに文章題で割り切れない答えを出す問題が苦手です。

▽ぼくは体育が得意だとは言えませんが、割合に得意な方だと思っています。

熟語例

▽割合（ある数を他のある数と比べたもの。ある数を他のある数で割って数値を出すので〝割合〟と言います。また、〝比較的〟の意味に使います。例割合に得意です＝比較的得意です。）

▽割高（割合いに高いこと。比較的高いこと。他の同じような物と比べてみて価が高いこと。）

▽分割（〝分ける〟こと。例土地を三つに分割して三人の子に与えた。）

▽割拠（地方地方に分かれ、それぞれそこを根拠として争うこと。例群雄割拠の戦国時代）

▽割愛（愛は〝惜しむ〟こと。切り取るのは惜しいと思いながら、仕方なく省略すること。）

株

六年

画数 10

筆順 木 朩 株

オン

クン かぶ

成り立ち

もとの字は〝朱〟でした。〝朱〟は、〝木〟という字に、〝切る印〟の〝一〟を加えた字で、「木を切る」ことを表した字です。「木の〝切りかぶ〟」のことです。

木の切りかぶの心の色が赤いところから、〝朱色（赤い色）〟の意味に使われるようになりましたので、〝朱〟に〝木〟を加えて〝株〟という字を作りました。

また、わが国では、〝株〟が〝権利〟の意味に用いられていましたので、〝株式〟ということばが作られ、〝株式〟とか〝株券〟の意味に使われるようになりました。

使い方

▽ぼくは木の切り株にこしかけて弁当を食べました。

▽わたしの家の庭には、梅の木が三株あります。

▽徳川時代の末には、貧しい旗本から、御家人株を買って武士になる商家や農家の若者がいました。

▽「株を買った」とお父さんが言ったので、ぼくは木の切り株なんかどうして買ったのかと思いましたら、それは株式会社の株券のことでした。

熟語例

▽三株（立ち木を数える時には、一株、二株と言って数えます。）

▽御家人株（旗本の家の権利）

▽株式会社（大きな資本で運営するため、株券を発行し、それを購入した人〔株主〕によって組織された会社のこと。）

▽株券（株式の証券〔出資した金額を証明する文書〕のこと。単に〝株〟とも言います。）

▽株主（株券の持ち主のこと。）